

ジェントル通信

頑固になってきた理由、

ちゃんとありました

私は、今年で44歳。建築の会社を始めて23年。

最近、ふと思うんです。

「何だか頑固になってきた気がする...。」と。

昔は仕事でもプライベートでも、意見が違ってても「そういう考え方もありますよねえ〜」とうまく流せてたんですが、最近それがどうもできない(笑)

先日も、年上の経営者の方との食事の場で意見が合わず、大人気なくちよっとケンカ腰に自分の意見を通してしまっただけの場を凍りつかせてしまいました...。

「前の自分ならもう少し丸く収めたはずなのに...」

と帰り道に反省しながら原因を考えていたら、

「あれ、これ現場でも同じことしてるな」

と気付いたんです。

仕上がってしまった見えなくなる、家の中の”骨組み”や”下地”の部分に、以前にも増して細かく指示を出している自分。

ベテランの大工さんからすると「そこまで言う?」というレベルらしく、最近では愚痴をいただく機会も増えてきました(涙)

プライベートでも現場でも、なぜこんなにも「譲れないこと」が増えたのか?

多分これ、大工としての経験よりもお客様の話を直接聞く機会が格段に増えたことで、**ちよつとした「予知能力」**が身につけてしまったのかもしれない。

「あ、このままいくと後で不具合出るやつやな」とか

「そこ、今ちゃんと言ったほうがいいやつやな」とか。

しかしそもそも細かな指示を飛ばすばかりで大工さん達に煙たがられるのも悲しいので、最近は大工道具を持参して気になった箇所は自分で作業することも増えました。

それでも大工さんからの愚痴が遠くから聞えてくる時は(涙)、

使ってたわけでもない道具をやたらと丁寧になべ直したり、拭いてみたりして傷ついた心を鎮めています(笑)

これをやっている、不思議と落ち着くんですよ。

仕事でもプライベートでも、譲らず頑固になったり、工具を触ると落ち着いたり...。

これはもう元大工の職業病なのか?

それともただの老化現象(笑)?

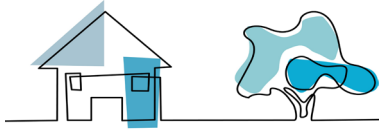
📢 背後から大工さんの愚痴が聞こえてきそう...(笑)



細かい所を
チェック中!



日々の工事を
アップしています



今月のお客様相談

～50代半ば夫婦 人生後半を愉しむためのリフォーム～

今回の物件は、30坪程のツーバイフォー住宅。3LDK。

ご相談頂いたのは半年前、お子さん2人が独立され、ライフステージの大きな変化を迎えられたご夫婦からでした。

現在のお家のご夫婦2人には十分過ぎるスペースが残されていますが、「お風呂が狭いのがずっと気になっていた...」と旦那さん。

戸建て住宅の浴室の通常サイズは1616サイズ、約1坪分。正方形に近い形だが、

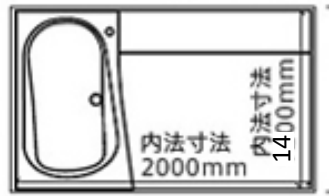
一方の依頼主の浴室は1420サイズ。こちら面積は同じ約1坪分だが、形が長方形で短辺に浴槽が配置されるため、どうしても幅が狭くなり足が伸ばせない

1616 1坪サイズ



一般的なユニットバスサイズ。
洗い場と湯船の長さが一緒でバランスが良く使いやすい。

1420 変形1坪サイズ



特注サイズ。
洗い場は広く使いやすいが、湯船が短く足を折り曲げて浸かることになる。

「まずは、浴室面積を広げたい!」というご希望でしたが、このお家が「ツーバイフォー工法」だったために、大きな問題が...

そもそも「ツーバイフォー工法」は、壁・床・屋根をパネルとして接合して面で耐力を造っているため、壁が壊せず間取り変更はほぼ不可能に近いのです。一級建築士さんでも構造の計算が困難なため断る方が多く、出来たとしても費用が許容範囲を超えることになってしまいます。

そんなこともあり、浴室面積を拡大する夢はすぐに潰れてしまいました(涙)。

でもそんな時こそお客様との打合せを重ねに重ね、知恵をふり絞り、**現状の浴室間取りにピッタリはまるユニットバスをタカラスタンドに特注**することでスペースを最大限生かすことをご提案。無事、ゴールデンウィークまでに完成いたしました!

ご主人の最大のお悩みは解消されたものの、実は奥様の方には別のお悩みが...

それは独立されたお子様はお二人とも東京に引っ越されたため、孫ができたのになかなか会いに行けないこと。

うちの子はまだ小学生なんですが、
未来を想像すると少し寂しい気持ちになりますね(涙)
「できれば大阪に住んでくれー」と今から願ってます(笑)
でも親は、子供たちのやりたい事を応援してやるしかない。

ご夫婦の心境、お察しします。

